



葉山小だより

「自分で考え 行動する子」 「仲良くする子」

No.6

令和元年7月 5日
葉山町立葉山小学校
校長 富樫 俊夫

英国セーリングチーム 葉山小学校に来校



前合宿をしています。競技で使用されるものと同型式のヨット（470型）の前で、この

6月28日に、英国セーリングチームの選手やコーチ、スタッフ9人が来校されました。英国セーリングチームは、オリンピックヨット競技での金メダル獲得数が28個で世界1位の世界トップアスリートです。2020年の東京オリンピックではレースが葉山沖で開催されることから、英国チームが葉山町で事前合宿をしています。競技で使用されるものと同型式のヨット（470型）の前で、この



選手の方々が本校の6年生に「セーリング競技から得たもの」について、今までの喜びや苦労、そして優勝できた時の喜びなどを交え、選手としての思いを話してくださいました。さらには子どもたちからの質問も受けていただきました。子どもたちは、「セーリングを始めたきっかけと思い出」、「競技をやめたい、もうやりたくないということがあったか」、「選手にとってオリンピックはどのような大会であるか」などの質問をし、選手からの答を聞く中で、夢や励ましを自分の心の中に持てたのではないかと思います。

「セーリング競技から得たもの」について、今までの喜びや苦労、そして優勝できた時の喜びなどを交え、選手としての思いを話して



その後、選手の皆さんは6年生の教室に分かれて子どもたちと一緒に給食を食べながら交流する時間を持ちました。子どもたちにとって、素晴らしいひと時になりました。

◆ ◆ 「特別な教科 道徳」の授業の充実に向けて ◆ ◆

すでに導入されている「特別な教科 道徳」は、平成30年4月より教科として導入されたものです。従前より道徳は教育課程に位置付けられていましたが、今回の教科化により、「道徳科」となり「発達の段階を踏まえ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと転換を図る（学習指導要領総則編解説より）」ことから、本校では、授業で具体的にどのように改善を図っていくのか授業研究を進めています。

そのため、本校では玉川大学の山口圭介教授を講師に迎え、具体的にどのように授業改善をしていったらよいかご指導を受けております。

6月には、山口教授をお迎えして今年度初めての研究授業を通した校内研究会を行いました。この日は、神奈川県教育委員会子ども教育支援課安齋指導主事、同委員会湘南三浦教育事務所教育指導員もご出席くださりご指導を受けることができました。

教科書（光村図書）にある「正直」、「誠実」をテーマとした「手品師」という教材を用いた授業です。教材のあらすじは、「腕はいいが、あまり売れない手品師が、大劇場のステージに立てる日が来るのを願って腕を磨いていた。ある日、寂しそうにしている男の子に気づいた手品師は、手品を見せて元気づける。明日も来てくれるかと問う男の子に、手品師は『きっと来るよ。』と約束する。その日の夜、友人から大劇場に出られるチャンスがあると連絡を受ける。その日は男の子と交わした約束の日と同じ明日であった。迷った結果、男の子との約束を選んだ手品師は、翌日たった一人のお客様を前にして、素晴らしい手品を演じた。」というのですが、男の子との約束を守るか大劇場に立つか、手品師の行動と自分の経験を重ねあわせ、共感的にとらえるとともに、誠実な行動とは何かを考え、さらに、誠実に行動するうえで、その人自身が「大切にしたい心は何か」について、多面的・多角的に考えることを通して自分の考えを持たせたいと考えました。そのため、今回の授業では、結末の前まで読み、手品師は翌日どちらを選択したか考え、議論をするという学習をしました。子どもたちは、自分だったらという意識で考え、意見を出し合いました。道徳の授業では、本音が出せることが重要です。それは、どちらを選んでも、自分にとっては正直であり、自分の心に誠実であるからです。前述した学習指導要領に明記されている「答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え向き合う」ことで、将来同じような場面に直面したとき適切な行動がとれるようになることを想定しています。放課後の研究会では、今回の授業について、成果と課題、今後改善すべきことを研究協議し、最後に講師の山口教授よりご指導・ご助言をいただきました。

今後も、他の学年の授業研究を進めることを通して、よりよい授業づくりに取り組んでいきたいと考えています。